



小鳥たちの営みが横浜の台地にも

六月に入って急に庭が騒がしくなった。



親子のようだ。

我が家の甘夏の木や、家のベランダの下に付けた巣箱に四十雀が子育てをした事がある。今年も庭には幾つもの巣箱をかけたが使った形跡がない。どこで子育てしたのだろうか？と話し合っていた。

今年春は例年に無く気温が高い日が多かった。その為か、庭木の繁り方が半端ではない。徒長枝が凄いので、剪定を始めた。その徒長枝の付け根付近には細かい枝が沢山。例年に無い繁り方。鋏を入れるのも大変。

裏庭の銀木犀の枝が道路に大きく張りだしていた。その枝を払ってみると矢印の先に左の写真のような巣があった。草の葉だけでなく、ビニール紐等も織り込んであった。



近くの森が急傾斜地対策工事で伐採された。それで



それに住処を追われた小鳥たちが来たのかも知れない。



そうした親子でお庭が賑やかになったのだろうか。巣の中はきれいだ。小鳥は雛の糞も運び出す。「発つ鳥後を濁さず」とはこの事か？

あなたはどう思われますか？

旧松本剛吉別邸

神奈川県小田原市南町

二〇二三年六月



小田原駅から南に歩み、

望の情報係を勉めたそう。彼は政治の推移を克明に記録しており「松本剛吉政治日誌」として史料価値が高いと云う。

成建造物」に指定されている。

小田原城、東海道を越えた所に旧武家屋敷通り西海子小路がある。どの家も構え

小田原は江戸の西の守り。譜代の大久保氏が城を守り、最高十一万石を誇っていた。

その為だろうか、この西

別邸。松本剛吉は元貴族院議員。山縣有朋や西園寺公

建物は一九二三年(大正二年)頃に建てられ、現在

海子小路の重臣達の屋敷はどれも大きい。

その一つが、旧松本剛吉別邸。松本剛吉は元貴族院議員。山縣有朋や西園寺公

小田原市の「歴史的風致形

小田原市の「歴史的風致形



来週は休刊。七月二日は未定です。